

## 優秀賞

あいさつのこだま

秋田市立桜中学校

二年 川原谷 真穂

「おはよう。」

私の一日は、どんなに眠くてもいつも口からこぼれるこの一言から始まります。すると「おはよう。」と返事がきます。まるで山の中で声が反響するように、温かい気持ちとともにあいさつはこだまします。次に、朝食のときの「いただきます。」「ごちそうさま。」そして学校に行くときの「行ってきます。」など、朝の短い時間でも、私たちはあいさつを何度も交わしているのです。

私は登校中、すれ違う人にあいさつをしながら歩いています。隣の家の人、地域の人、信号で寒い日も暑い日も交通指導をしてくださる方、友達……。話をしたことがない方でも「おはよう。今日は寒いね。」と声をかけられるだけでとても気持ちが温かくなりま

す。雪の降る寒い朝、この一言はまるで心のカイロのようです。こんなに幸せな気持ちを自分だけで味わうのはなんだか惜しいので、私はたくさんの人にあいさつすることを心がけています。相手がにつきり返事をかえしてくれると、学校への足どりも軽くなります。だから私は、どんな日でも歩いて通うことができるのだと思います。

学校では「あいさつ運動」といって、朝、生活環境委員や部活動の人たちが玄関に立ってあいさつをするという活動があります。登校してくる人を「おはようございます。」の一言で出迎えるのです。私も委員としてあいさつ運動に参加したことがあります。とてもすがすがしい気持ちになれます。多くの人は元気よくあいさつを返してくれます。でも、中には無言で通り過ぎる人もいました。そんなときは少し寂しい気持ちになります。あいさつ一つで印象ががらりと変わる、と私は思います。あいさつを返さない人を見ると、心を閉めきっているように感じます。そんな心に、あい

さつという暖かい風が吹いて心の窓が開いてほしいと思います。「余計なお世話だし、あいさつなんて面倒……。」本当にそう思いますか。確かに、気分が乗らなかつたり言うのがおっくうになったりするときは、誰でも必ずあります。しかし、そんなときだからこそあいさつは必要なのではないでしょうか。沈んだ気持ちのままいるのは、自分にとってプラスに働くことはありません。思い切ってあいさつをする。そうすると、さつきまで見ていた景色も、自分の気持ちも明るくなると思います。

相手との信頼関係を築き、心を明るくしてくれる「あいさつ」。私はもう一つ、大きな意義を感じます。それは、自分が今この場所で存在しているのだということを示すことでもあると思うのです。私は両親が共働きのため、「ただいま。」と言っても返事がかえってくることはありません。しんとした玄関。静まりかえった家は虚しさを感じます。でも、「ただいま。」という声が聞こえたらそんな気持ちもどこかにふつとび

ます。声をかける、返事をする。その行為は、相手の存在を確かに認めることに他なりません。「あなたがいて私がいる世界だよ」という気持ちをあいさつという形でキャッチボールしているのだと思います。

私はこれまで多くの人と数え切れないほどのあいさつを交わしてきました。あいさつをして返事が来ることの喜びを、あいさつのできる人のいる幸せを、その中で学びました。たかがあいさつ、と思う人もいるでしょう。しかし「あいさつ」は日々の中で人間関係も、そして自分の心も豊かにするものだと思います。だから、これからも私は、心を込めたあいさつをし続けていきます。